# ７［小説］　『』

［１］　しかしながらなんで楠木正成の名前を何度も口走るのかということを改めて考えてみると、これは不思議。そこで、自分はなぜかくも楠木正成にＡ拘泥するのであろうか。約三分考えて、出た結論は、「わからない」。①なめとったらあかんど。おちょくっとったらあかんど。楠木正成はの人である。このような河内弁を話していたのであろうか。自分は高校で山岳部に入っていて山には何度も登った。峠も歩いた。にも行ったことがあるうえ、の庄には住んでいたことさえある。それにつけても分からないでは分からない、なにか理由があるはずだと、なお頑張って考えに考えた結論は、「カッコいいから」。

［２］　楠木正成はいい。なぜか。それは、ええっと、それはええっと。つまり「の別れ」。つまり、自分の子供と桜井というところで別れたからである。などということは理由にならない。というか、桜井で子供と別れた人など、いまでもたくさんいるわけでそうではなく、つまりこれは、そうっ、ａ今生の別れだったわけですよね、その後、そう。「の戦い」。楠木正成はＢ従容として死地にｂオモムいた。すごいっ。と言っていてますます分からなくなるのは、楠木正成に関するｃチシキがきわめて断片的であることで、そうして、「桜井の別れ」とか「湊川の戦い」とかいう言葉は自分は知っている。しかしながら、じゃあそれがなんなのか？②いったいどういう事情や経緯があってそんなことになったのか？　と訊かれると、くわあ。ぜんぜん分からない。

［３］　じゃなにか？　君はぜんぜん分からないものを、ただただ恰好いいと思ってｄシンポウ、ことあるごと楠木正成楠木正成とｅトナえ続けたのか？　二十年間の長きにわたって。君は？　君は？　と言われると言葉がねぇ、その通りです。というしかないが、しかしながら、自分だってまるっきりのあほではない。なぜ恰好いいのか説明をしろ、と言われれば、多少説明できるくらいのイメージはある。すなわち、楠木正成は南朝の忠臣、ってそれくらいは僕だって知っている。あ？　なんで知ってんだ？　っていうか、知らないのは、その流れね、つまり、いったい全体どういう流れで楠木正成が桜井で息子と別れたり湊川で戦死したりしたかということが分からぬ知らぬのだけれども、つまり、無茶苦茶をやって負けた。というのであれば、そら当然というか、ちくとも恰好いいと思わないのだけれども、楠木正成の場合、まあ、あのいろいろなことをちゃんとやった、例えば、そう、なんでそんなことを思い出すのだろう、いつ知ったのだろう、けど、だんだん思い出してきた、のお城で何十万という方の軍勢を相手に、さまざまのはかりごとを以てこれを守り通すなどしたんだよ楠木は。そういう実にちゃんとした、というか非常な能力のある軍略家で、そういうちゃんとした人が、道理を通した挙げ句に、不条理な敗死・滅亡するというのは、くうっ、っていうか、恰好いい、っていうか、ただもう強いばかり勝つばかりのやつより人に好かれる、って感じね、③この感じが、恰好いいと思っていたのだけれども、④どうも駄目なようで、そうなると気になってなにも手に着かない。したらしょうがない、ここは一番、楠木正成のこと、ちょっと一回、勉強してこましたろ、って、俺、とりあえず服を着替えてくんくんしたぜ。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　波線部Ａの意味を五字程度で答えよ。また、波線部Ｂの意味を後から選べ。4点×2

Ａ［　　　　　　　］

Ｂ　ア　あわてている様子

　　イ　ゆったりと落ちついている様子

　　ウ　のんびりとしている様子

　　エ　楽しそうな様子

　　オ　堂々としている様子

　　〔　　　〕

問２　傍線部①は、どのようなことに対していわれた言葉か。三〇字以内で答えよ。6点

　　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　傍線部②とあるが、「そんなこと」とは何か。「こと」につながるように、本文中から二五字以内で抜き出せ。6点

　　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　傍線部③とあるが、何を「恰好いいと思っていた」のか。二〇字以内で説明せよ。7点

　　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部④とあるが、何を「駄目」といっているのか。適当なものを次から選べ。6点

ア　楠木正成が南朝の忠臣であることを、なぜ知っているかわからないこと。

イ　楠木正成のことを全く分かっておらず、きちんと説明できないこと。

ウ　楠木正成は、強いばかり勝つばかりのやつより、人に好かれること。

エ　自分が楠木正成のことを気になって、なにも手に着かない状態であること。

オ　自分が楠木正成を二十年もシンポウした理由がうまく説明できないこと。

　　〔　　　〕

問６　本文における語り手の自称には、どのような特徴があるか。また、その効果を述べよ。5点×2

特徴［　　　　　　　　　　］

効果［　　　　　　　　　　］

問７　本文の特徴を指摘したものとして、適当でないものを次から一つ選べ。7点

ア　語り手は、断片的に楠木正成のことを示しつつ、読者に正成のアウトラインが分かるように語っている。

イ　語り手は、自分の中にもう一人の自分を作り出すことで、対話のような形で話を展開させている。

ウ　楠木正成の名前を繰り返すことで、逆に語り手の関心が別のところにあることを暗示している。

エ　楠木正成に対する自らの思いを、「つまり」を繰り返して、自分の中ではっきりさせようとしている。

オ　「それはええっと」「くわあ」「っていうか」など、話し言葉を挟み込み、独特のリズムを作り出している。

　　〔　　　〕

【解答】

漢字　ａこんじょう　ｂ赴（いた）　ｃ知識　ｄ信奉　ｅ唱（え）

問１　Ａ＝こだわる（こと）　Ｂ＝イ

問２　楠木正成に拘泥する理由を三分考えて、わからないとしたこと。（29字）

問３　楠木正成が桜井で息子と別れたり湊川で戦死したりした（こと）（25字）

問４　有能な軍略家が不条理な滅亡をすること。（19字）

問５　オ

問６　特徴＝はじめは「自分」、次は「僕」、最後は「俺」になっている。

　　　効果＝自称が変わることで、くだけた感じの語り方になっている。

問７　ウ

●語　注

おちょくる＝からかう（関西の方言）。

金剛山＝御所市（奈良県）と千早赤阪村（大阪府）との境目にある山。標高一一二五メートル。周辺に、千早城など楠木正成のゆかりの史跡が点在している。

観心寺＝大阪府河内長野市にある高野山真言宗の寺。楠木正成の首塚がある。

■覚えておきたい語句

□１口走る…………………無意識にものを言う。

□２拘泥……………………こだわること。執着。

□９今生……………………この世に生きている間。この世。

□10従容……………………ゆったりと落ちついている様子。

□15シンポウ……………………ある教えや思想などを信じて尊ぶこと。

□26挙げ句…………………結局のところ。

□26不条理…………………道理に反すること。筋が通らないこと。

【読みのセオリー】

★呼称の意味を考える

　私たちは、時や場に応じて自分の呼称を使い分けている。つまり、呼称は場面や相手との関係を間接的に表現しているのである。呼称を読むことは、どのように語られているかを考えることになるのである。

【現代文読解用語200】

問　次の言葉の対義語をそれぞれ答えよ。

㊸⇔㊹［　　　　］

㊺総合　⇔㊻［　　　　］

㊼現象　⇔㊽［　　　　］

㊾潜在　⇔㊿［　　　　］

51具体的⇔52［　　　　］

53偶然　⇔54［　　　　］

55絶対　⇔56［　　　　］

57唯物論⇔58［　　　　］

59有機的⇔60［　　　　］

61能動　⇔62［　　　　］

【解答】

㊹形而下　㊻分析　㊽本質　㊿顕在　52抽象的　54必然　56相対　58唯心論　60無機的　62受動

〔場面解説〕

　「自分」は楠木正成のことが気になって仕方がない。そこでなぜそんなに拘泥するのか、その理由をあれこれと考えてみる。しかし、そのわけははっきりせず、正成のことを勉強しようと決意する。

〈作者＆出典〉町田　康（まちだ・こう）一九六二（昭和37）年大阪府生まれ。パンクロック歌手・詩人・俳優・小説家。一九九六年『くっすん大黒』でデビュー。二〇〇〇年に『きれぎれ』で芥川賞受賞。主な作品に、詩集『土間の四十八滝』（賞受賞）小説『権現の踊り子』（賞受賞）『告白』（谷崎潤一郎賞受賞）『宿屋めぐり』（野間文芸賞）など。本文は、『ゴランノスポン』（新潮文庫、二〇一一年）所収「楠木正成」より。

☆「セオラム　補充問題」問題は次の３種類があります。

　＊差し替え　　　……　当該の問と差し替えるもの

　＊追加　　　　　……　同じ問いで追加された問題

　＊新問　　　　　……　追加が可能な新たな問題

＊新問

問　23行目「そんなこと」の内容を30字以内で答えよ。

［答］　何十万という足利方の軍勢を相手に、千早城を守り通したこと。（29字）

＊新問

問　空欄（11行目）に入る語句として最も適当なものを次から選べ。

ア　短絡的

イ　表面的

ウ　一義的

エ　断片的

オ　一面的

［答］　エ

■小説の場面把握　★時・場・人物・事件は小説の基本

《　時　》　現代

《　場　》　「自分」の家

《人　物》　「自分」・楠木正成（「自分」の頭の中で考えている存在）

《事　件》　「自分」はなぜ楠木正成のことが気になるのか、そのわけをあれこれと、正成のことを思い出しながら考えている

■場面解説■

「自分」は楠木正成のことが気になって仕方がない。そこで、なぜそんなに拘泥するのか、その理由をあれこれと考えてみる。しかし、そのわけははっきりせず、正成のことを勉強しようと決意する。